

# 2010年2月期(第28期)決算ならびに 2011年2月期(第29期)業績説明会

ソーバル株式会社

ジャスダック証券取引所

証券番号:2186

平成22年4月13日

代表取締役社長

推津 順一

総スライド数:16ページ

## <目次>

1. 2010年2月期 業績の概要
2. 2011年2月期(第29期)の見通しと戦略

# 1. 2010年2月期 業績の概要

Point1 取引先のR&D抑制による影響大、大型案件の失注

Point2 組み込み以外の案件があっても受注できず

Point3 コスト削減によるスリム化の実行



適時開示 2009/12/18 16:00  
業績予想の修正(下方修正)の発表

- ・技術多能化の対応の遅れによる機会損失
- ・景気悪化、主要取引先の業績等の影響甚大

(百万円)

科目	2009年 2月期	2010年 2月期 期初予算	2010年 2月期 修正予算	2010年 2月期 実績	対前期 増減率
売上高	6,828	6,600	5,740	<b>5,766</b>	△15.9%
営業利益	741	500	0	<b>16</b>	△97.8%
経常利益	728	500	0	<b>19</b>	△97.3%
当期純利益	422	275	△30	<b>△19</b>	- %

取引先R&D抑制や、大型案件の失注確定により2009/12/18に業績予想修正。期初の稼働状況までの回復には至らず。

各種コスト削減を試みるが、大幅な売上減をカバーするまでには至らず。

※ 当事業年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期財務諸表等規則」に従い四半期財務諸表を作成しております。

# 財政状態、キャッシュフロー

## 財政状態

科目	2009年 2月期	2010年 2月期
総資産	2,640 百万円	<b>2,221</b> 百万円
純資産	1,936 百万円	<b>1,778</b> 百万円
自己資本比率	73.3%	<b>80.0%</b>
1株当たり純資産	891.74 円 銭	<b>818.83</b> 円 銭

総資産は前年同期比419百万円減、主に現金及び預金が349百万円減となったことによるもの。  
 純資産は前年同期比158百万円減、主に剰余金配当138百万円によるもの。

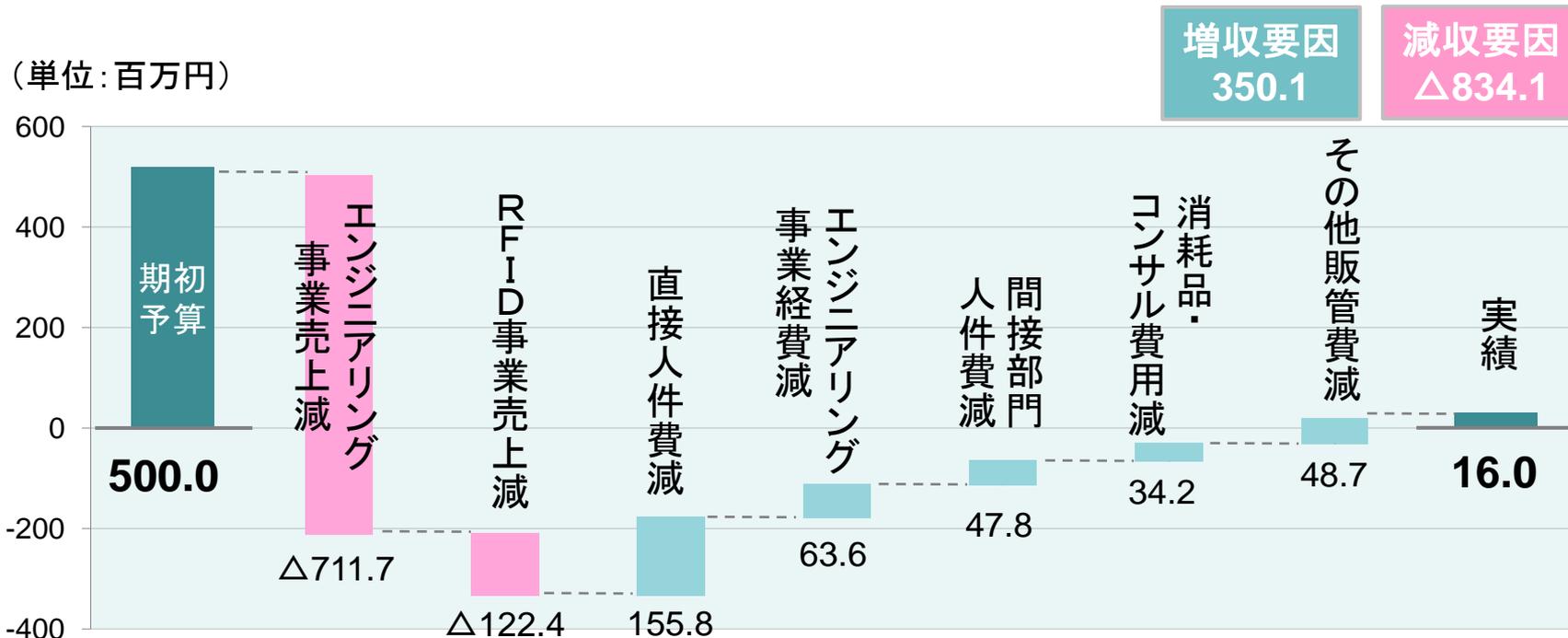
## キャッシュフロー

(百万円)

科目	2009年 2月期	2010年 2月期
営業活動によるCF	462	<b>△218</b>
投資活動によるCF	△24	<b>7</b>
財務活動によるCF	144	<b>△138</b>
期末残高	1,253	<b>903</b>

期末残高(現金及び現金同等物)は前事業年度末に比べ349百万円減、主に税引前当期純利益200百万円の計上、法人税等の支払い292百万円、配当金支出138百万円によるもの。

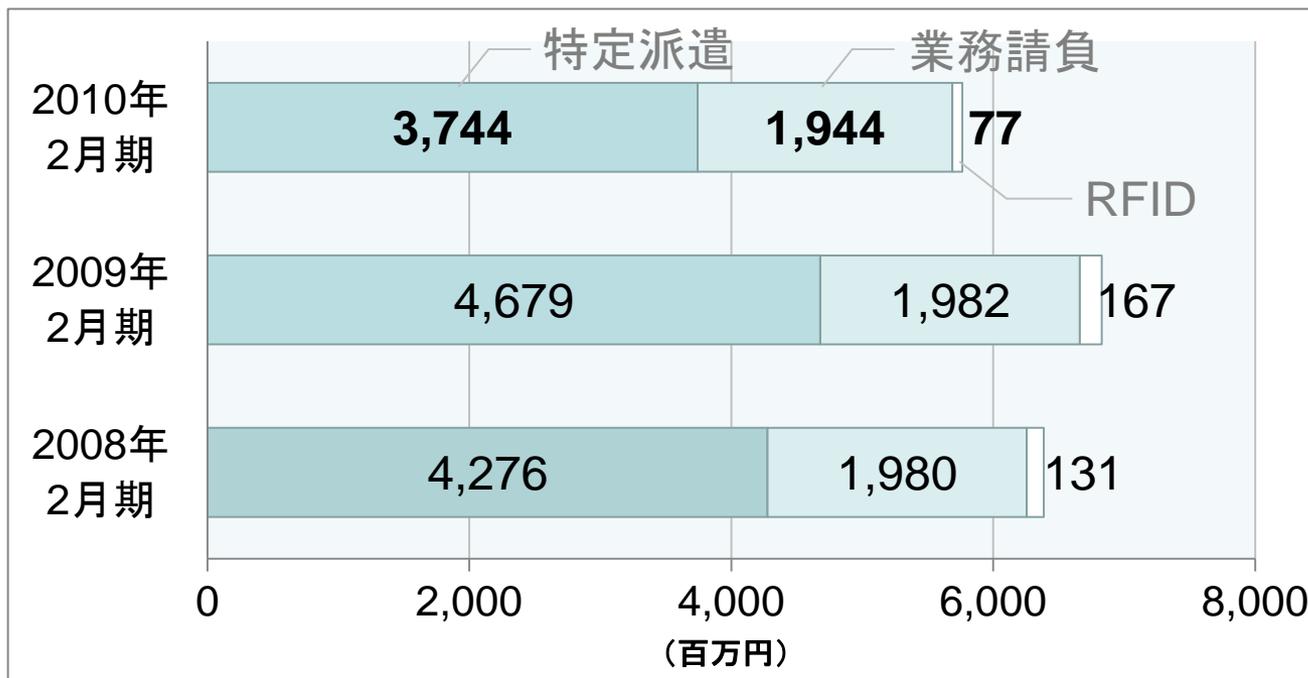
# 営業利益の増減分析



- 取引先の残業規制により、直接人件費(残業代)が減少。
- 事業所の統廃合などによるコスト削減。
- 一時帰休やリストラなどは行わず、空き工数を研修に活用。
- 間接部門の業務効率化により残業代が減少。

一定のコスト削減効果は認められるものの、大幅な売上減をカバーするには至らず。

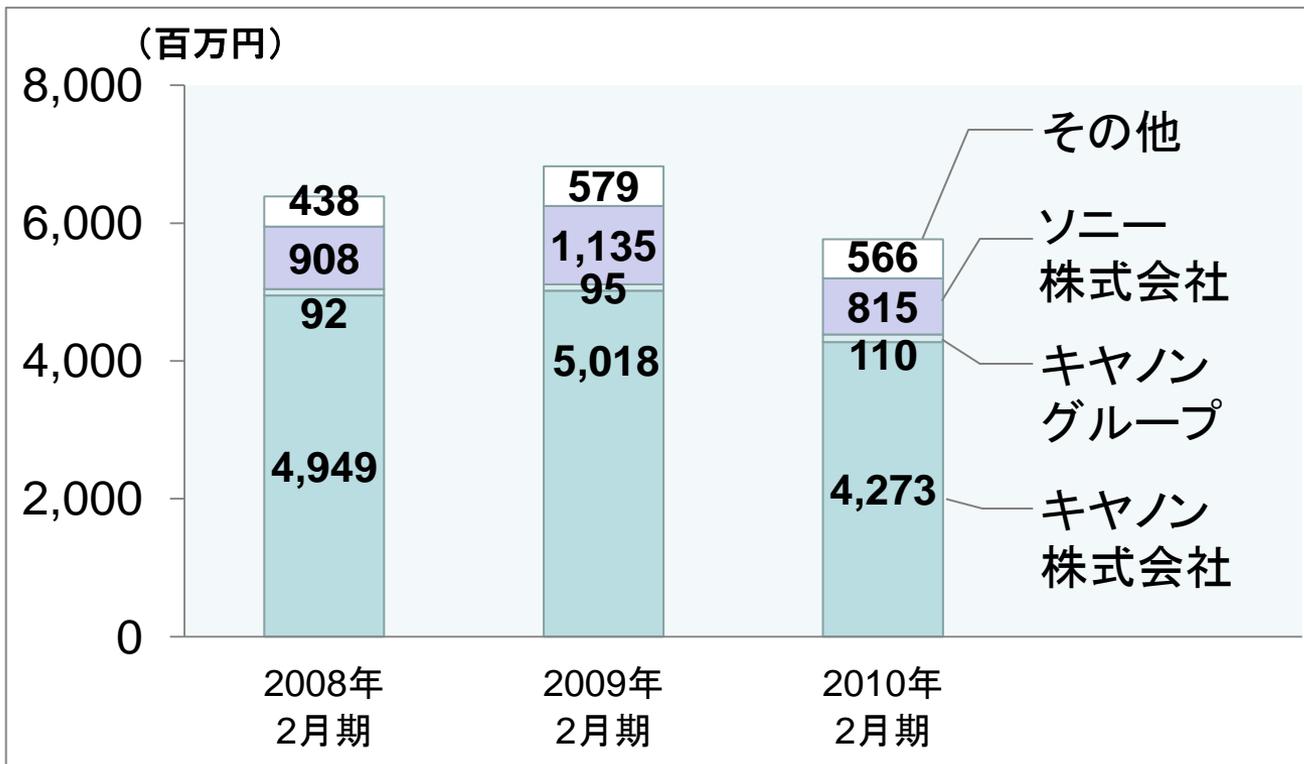
# セグメント別売上高



構成比率	2008年2月期	2009年2月期	2010年2月期
特定派遣	66.9%	68.5%	<b>64.9%</b>
業務請負	31.0%	29.0%	<b>33.7%</b>
その他事業 (RFID)	2.1%	2.4%	<b>1.3%</b>

先端系R&D(主に派遣契約)のニーズ減少による。業務請負の売上ボリュームは横ばい。

# 売上高構成比



構成比率	2008年2月期	2009年2月期	2010年2月期
キヤノン株式会社	77.5%	73.5%	74.1%
キヤノングループ	1.4%	1.4%	1.9%
ソニー株式会社	14.2%	16.6%	14.1%
その他	6.9%	8.5%	9.9%

ソニー様における契約縮小により相対的に、キヤノン様の比率が上昇。新規開拓により、その他の割合は微増。

## 2. 2011年2月期(第29期)の見通しと戦略

# 2011年2月期(第29期)の見通し

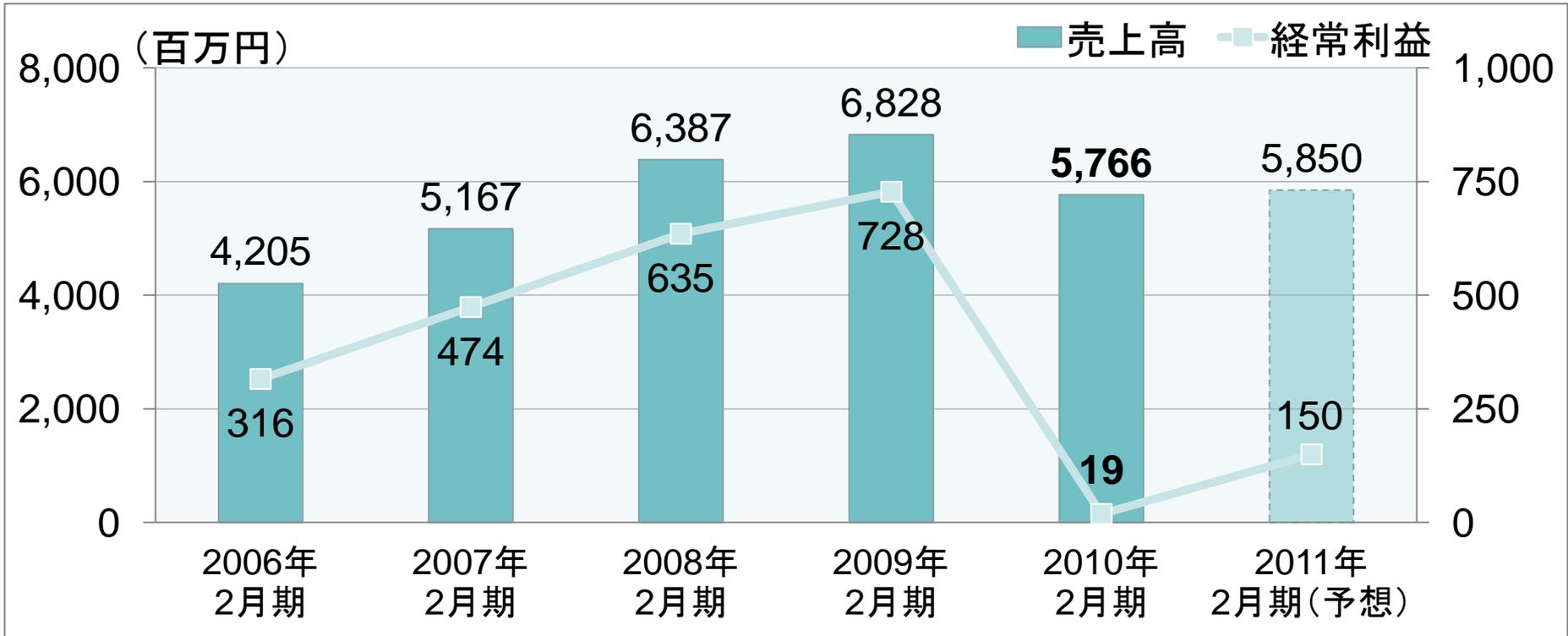
**Point1** 待機工数時の研修で得た技術の有効活用

**Point2** 新規顧客への実績作り、既存顧客からの受注再開

**Point3** M&Aや業務提携による営業力強化・人材獲得



**技術の深化と展開、組織変更を行い、再スタート**



既存技術の深化と、組み込み以外の幅広い技術の習得

他分野展開によるリスクヘッジ

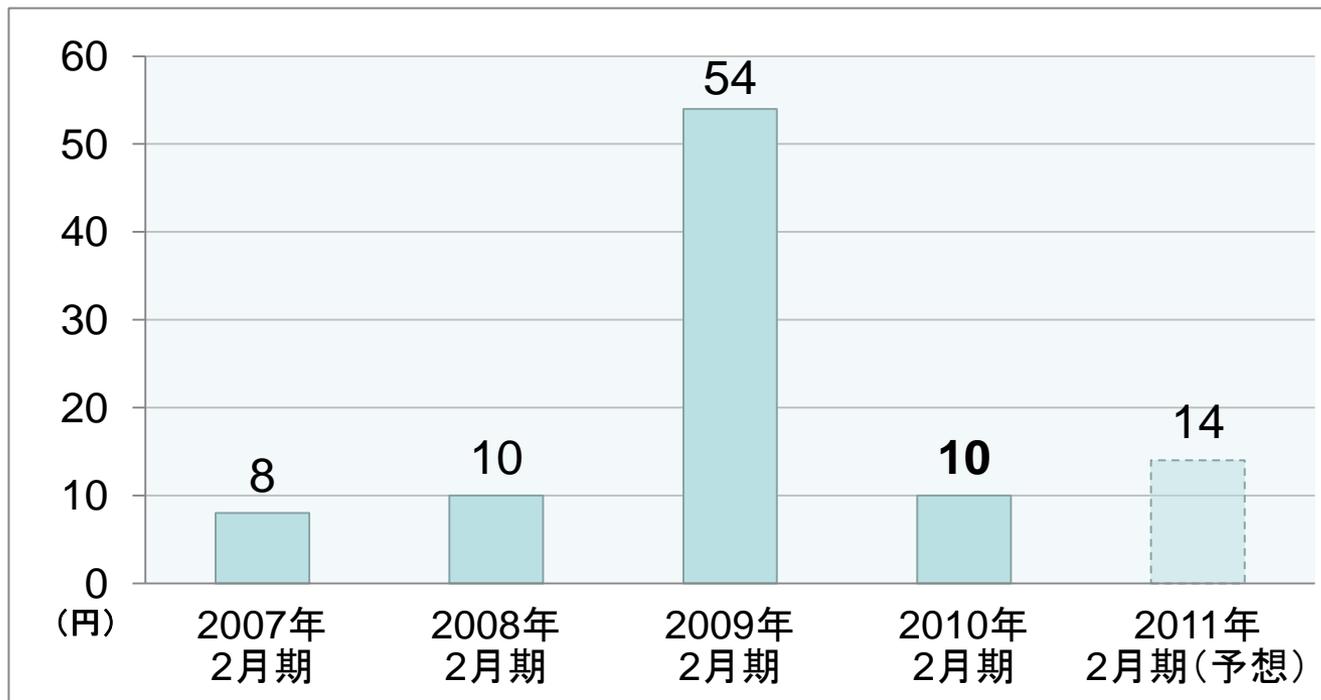


機会損失の削減

景気や特定取引先の動向の影響を受けにくい企業体質の確立

Chapter **2-3**

## 配当予想



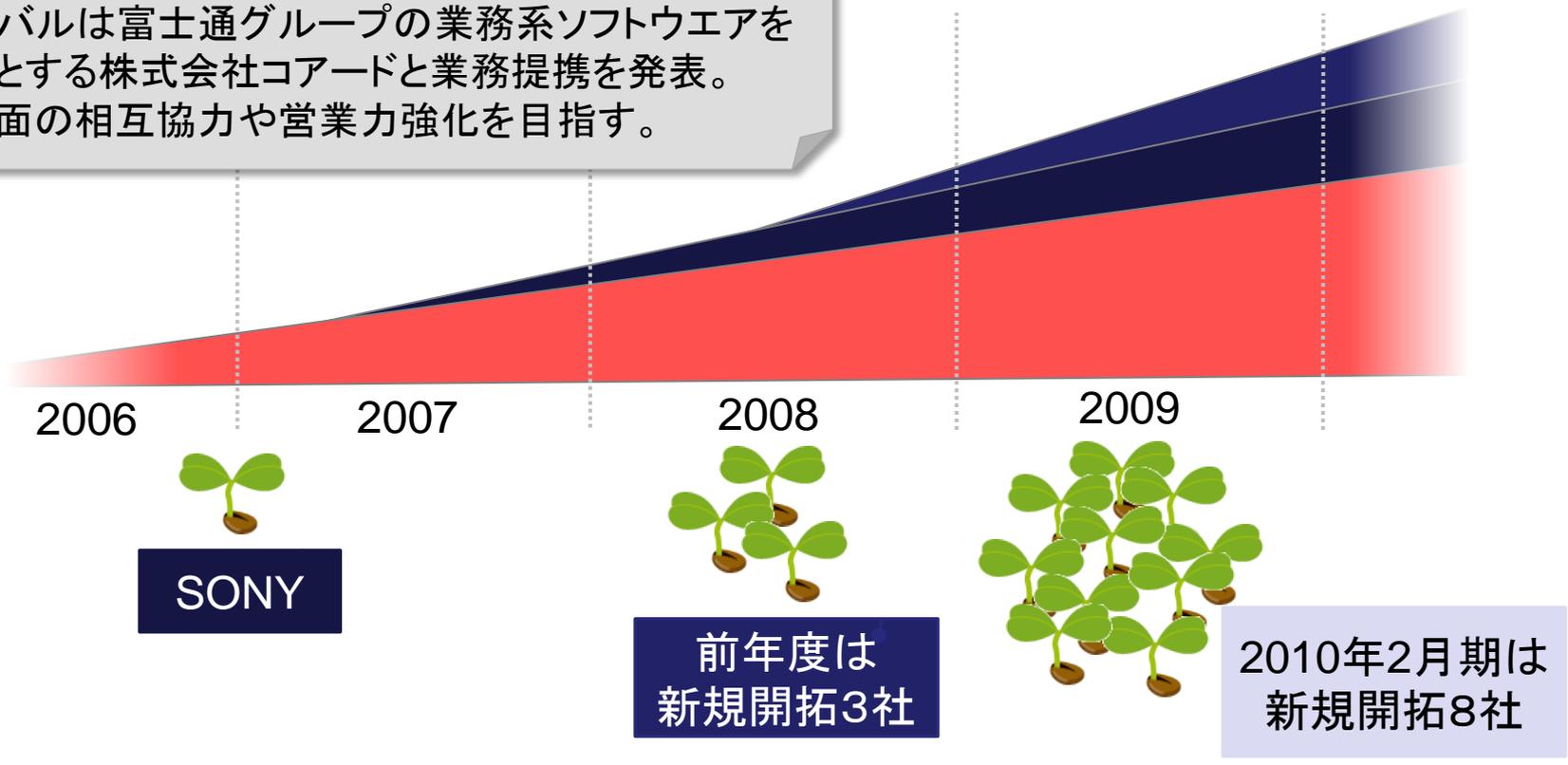
(基準日)	一株あたり配当金			配当性向
	第2四半期末	期末	年間	
2011年2月期(予想)	7円00銭	7円00銭	14円00銭	33.8%
<b>2010年2月期</b>	<b>10円00銭</b>	<b>0円00銭</b>	<b>10円00銭</b>	<b>—%</b>
2009年2月期	—	54円00銭	54円00銭	27.7%
2008年2月期	—	10円00銭	10円00銭	5.2%
2007年2月期	—	8円00銭	8円00銭	5.6%

2010年2月期においてはご期待添えない結果となりましたことをお詫びいたします。  
引き続き配当性向30%を目標としております。

# 次年度へ向けての施策

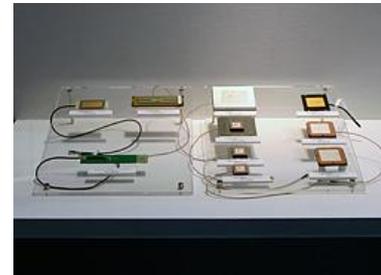
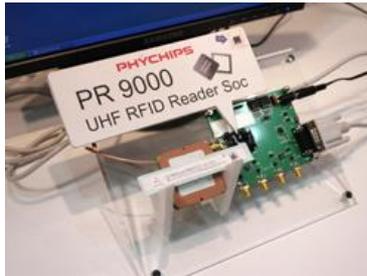
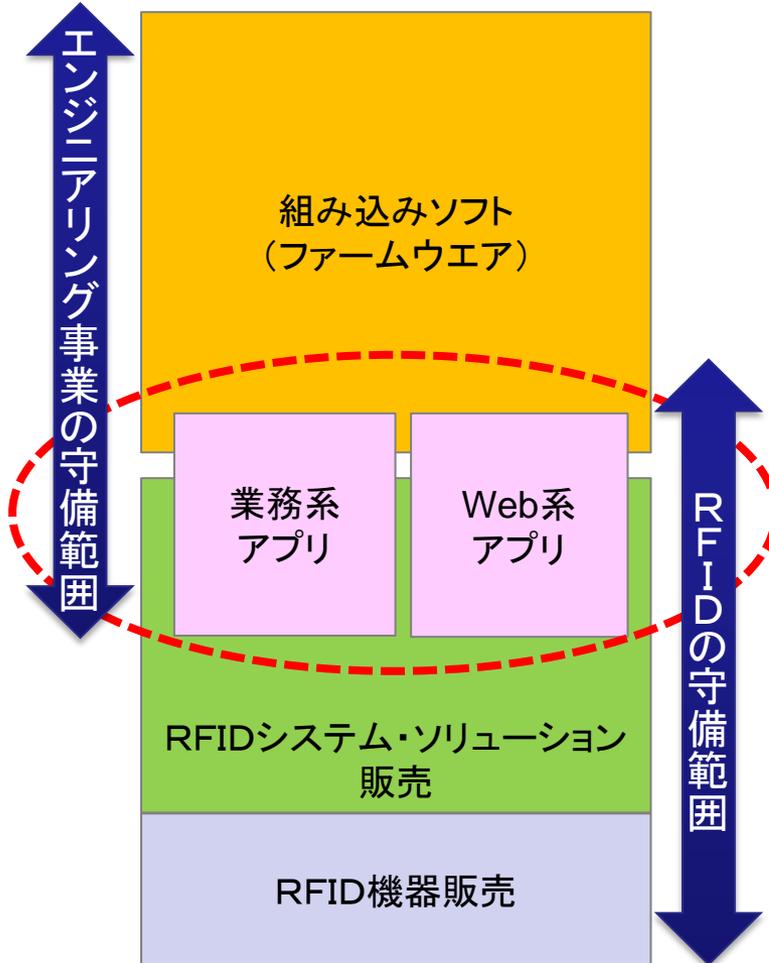
年度目標10社には届かずも、有望な取引先開拓に成功。  
 今後も新規開拓や、業務提携、M&Aなどを積極的に推進。

報道発表 2010/4/5 16:00  
 ソーバルは富士通グループの業務系ソフトウェアを得意とする株式会社コアードと業務提携を発表。技術面の相互協力や営業力強化を目指す。



※グラフはイメージ。RFID関連のお取引を除く。

既存事業の体制を活かした  
RFIDソリューションビジネスへの展開



+ コアード社との業務提携により、  
一層の体制強化。

RFIDをきっかけとした既存事業の  
営業機会創出

アナログ/デジタル、HW、SW  
多様な人材育成

役員、社員一同、一丸となって  
企業価値向上に邁進してまいりますので、  
引き続きご愛顧のほど  
よろしくお願い申し上げます。